

未来へ
筑西のチカラ

茨城県少年女子バスケットボール選抜 キャプテン

添野 紗姫菜さん
16歳 一本松



1つのボールを
みんなでゴールに届ける

きっかけは友人からの誘い

「バスケをプレーしているときに居心地がいいんです」と笑顔で話すのは、県少年女子バスケットボール選抜チームキャプテンの添野紗姫菜さん。

添野さんは、バスケの名門土浦日本大学附属高等学校でプレーをする高校2年生。バスケットボールとの出会いは、小学5年生のときに友人に誘われたのがきっかけでした。普段はクールな娘が、夢中で練習に打ち込む姿が印

象的だったと、一番近くで見守ってき
たお母さんが教えてくれました。

バスケットボールをとおして
新たな自分を表現

持ち前の冷静さを活かし、ポイントガードとして活躍する添野さんが初めて県の選抜チームに選ばれたのは、中学2年生のとき。高校進学後もチームの柱として勝利に導き、県少年女子バスケットボール選抜に選ばれました。「ポイントガードは試合中に一番ボー

ルに触る回数が多いので、常に周りに目を配りながらコミュニケーションを取っています」とチームの中心としての役割を語ってくれました。それでも、以前はコミュニケーションを取ることが得意ではなかったそうです。そんな添野さんを変えたのがバスケットボールです。ゴールへの道筋を立て、チームが一つとなり、ボールをつないでいくことが添野さんの新たな一面を引き出していました。

目標にするのは
コート上で信頼される選手

チームの柱としてプレーする中で目指しているのは、常に冷静に周りを見てチームメイトから信頼される選手。昨年まで一緒にプレーしていた先輩の背中を見て目指し始めたそうです。「同じポイントガードのポジションで、今も追いかけています」と真っ直ぐに目標を見据えていました。

どんな状況でも、対戦相手とチームメイトを観察しながら試合の流れを作っていく添野さんの目指す先には、憧れの先輩の姿がありました。

夢中になれる気持ち大切に

毎日、朝練と放課後の練習に追われ、自分を律する日々を過ごす添野さんですが、息抜きの時間も大切にしている



それで「家ではお菓子作りを楽しんでいます」と女子高校生らしい一面をのぞかせます。

厳しい練習の中でも努力を続けていく添野さんですが「バスケが好きです。自分が夢中になれるものを見つけることができたので、これからもこの気持ちを大切に持ち続けて挑戦していきます」と未来への意気込みを語ります。12月に出場する全国高等学校バスケットボール選手権に向け、今日もチームメイトにパスをつなぎます。

